|  |
| --- |
| **欧米から水素・燃料電池関連企業が来阪！**  **クリーンテック フォーラム・個別商談会**  **～　関西企業等に技術提携や共同開発のパートナーを求める欧米企業が来日　～** |

関西企業等との技術提携やパートナーシップを求める欧米の水素・燃料電池関連企業の技術開発担当者を一堂に招聘いたします。いずれも水素・燃料電池分野における新技術･新製品開発でリードする企業であり、各社がプレゼンテーションを行った後、個別商談会を実施します。この機会に是非ご参加ください。

|  |
| --- |
| **開催概要** |

**〇日　　時：　平成2９年３月６日（月）**

フォーラム：午後１時～３時５５分　 セミナー・企業発表（各社30分×５社）

個別商談会：午後３時５５分～5時２５分（事前予約制）各社３0分

**〇会　　場：　シティプラザ大阪　４階　海の間（フォーラム）　眺の間（個別商談会）**

大阪市中央区本町橋２−31

**○主　　催：　大阪商工会議所・近畿経済産業局**

**大阪外国企業誘致センター（Ｏ-ＢＩＣ）・産業交流センター**

**○協力(予定)：在日米国大使館、カナダ大使館、カナダ政府大阪通商事務所**

**カリフォルニア燃料電池パートナーシップ、クリーンテックサンディエゴ**

**〇プログラム：**※内容・時間は一部変更されることもございますので予めご了承下さい。

**13:00- 13:05 開会挨拶　近畿経済産業局　次世代産業課長　森下　剛志　氏**

**13:05- 13:25 講演　米国エネルギー省（U.S. Department of Energy：DOE）**

**燃料電池技術局部長　スニタ・サティヤパール（Sunita Satyapal）氏**

**13:25- 15:55** 海外企業による技術シーズ、技術的課題、日本企業とのパートナーシップ構築

　　　　　　　に向けて等、プレゼンテーション　各社３０分（和英同時通訳付き）

|  |  |
| --- | --- |
| 海外企業 | 主な技術・サービスの紹介 |
| 1. **アレニウス・システムズ**   **社（米国）** | **オンサイト型の水素ステーション用の設備を開発、天然ガス（CH4）の熱分解により二酸化炭素をほとんど、または、全く排出せずに水素とカーボンブラックを生産する技術を持つ。** |
| 1. **ファーストエレメント・フューエル社（米国）** | **北米で最も多くの水素ステーションを運営する会社。米国最大の水素小売企業。水素ステーションの設計、認可、建設、運営、保守などを行う。** |
| 1. **PDCマシンズ社（米国）** | **水素ステーション用超高純度ダイヤフラム圧縮技術を持つ。また家庭用や小規模車輛の水素充填に使用できる小型水素充填機器を開発。** |
| 1. **クアドロジェン・パワーシステムズ社（カナダ）** | **独自のバイオガスクリーンアップ技術を使って汚染物質を除去し、バイオガスから再生可能なバイオメタンと水素を生成する事業を行っている。** |
| 1. **ITMパワー社（英国）** | **水素ステーション・システム用のPEM電解スタックを製造。これまでに英国、ヨーロッパ、米国で水素システムの導入実績がある。** |

**※説明会の発表資料は英語となります。※海外企業の詳細は次ページを確認ください。**

**15:55- 17:25 個別商談会（和英逐次通訳付き）各社３０分**

**〇定　員：フォーラム　８０名**（申込先着順で定員になり次第締め切らせていただきます）

**個別商談会　各プレゼン企業につき、商談３枠**

（海外企業の都合により、ご希望に添えない場合もございます。）

**〇参加料：無　料**（当日は受付でお名刺を頂戴いたします）

**〇言　語：英 語／日本語**（セミナーは同時通訳、商談会は逐次通訳が付きます）

**〇お問い合わせ：**大阪商工会議所　国際部　山田・名越

電話：06-6944-6400　FAX:06-6944-6293　Ｅmail：[ke-yamada@osaka.cci.or.jp](mailto:ke-yamada@osaka.cci.or.jp)

**〇参加申し込み：**

別紙の申込書に必要事項を明記の上、**２月２８日（火）まで**にFAXにてご返信下さい。

　　　　　＊商談希望者には、ご面談時間等も併せて参加証を事前にFAX致します。

＊フォーラムのみ参加者には参加証をお送り致しません。予めご了承ください。

ホームページからもお申し込みいただけます

**http://www.osaka.cci.or.jp/event/seminar/201702/D11170306014.html**

**○個別商談会についての注意事項：**

\*参加される日本企業の皆様には、本所が実施するアンケートや事後のフォローアップにご協力をお願いします。

\*面談は1ブース（１社）につき、最大３０分まででお願いします。

\*商談会参加者には開催１週間前頃に参加証をFAX致しますので、当日ご持参頂きますようお願いします。

\*参加証には商談時間枠を記載致しますので、その枠内で商談を頂きますようお願いします。

\*ご希望に添えない場合は、本所からご連絡させて頂きますので予めご了承ください。

\*お申込み後のキャンセルはご遠慮いだきますようお願い致します。キャンセルされる場合は速やかに事務局まで

ご連絡ください。

\*商談会における実際の商談・取引、ならびに個々の企業とのお取引開始後の交渉などに関しましては、本所は

一切介入できませんので、それぞれの企業と行った商談内容などはよくご確認の上、参加者各位の自己判断・

責任にて行うようお願い致します。

**FAX: 06-6944-6293**大阪商工会議所　国際部　山田行き　　

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **お名前**  **※複数名の参加可** | 1. （和） | | 1. （和） |
| （英） | | （英） |
| **お役職** | 1. （和） | | 1. （和） |
| （英） | | （英） |
| **会社名** | （和） | | |
| （英） | | |
| **所在地** | 〒　　- | | |
| **TEL / FAX** | TEL: | FAX: | |
| **E-mail** | ＠ | **URL** | |
| **御社の事業内容、**  **主な技術** |  | | |
| **ご参加プログラム** | **☑をご記入下さい：(複数可)**  **□企業プレゼンテーション　　 　□個別商談会** | | |
| **面談希望企業**  **＜複数希望可＞** | * **①　アレニウス・システムズ 社（米国）** * **②　ファーストエレメント・フューエル 社（米国）** * **③　PDCマシンズ 社（米国）** * **④　クアドロジェン・パワー・システムズ 社（カナダ）** * **⑤　ITMパワー 社（米国支社）** | | |

**クリーンテック・フォーラム・個別商談会（３/６）申込書**

※本フォーラムと商談会は、平成28年度経済産業省委託事業「地域中核企業創出・支援事業」の一環として実施します。

※ご記入頂いた情報については、主催団体からの各種連絡・情報提供(e-mail含む)のために利用させていただきます。

|  |
| --- |
| **招聘企業の概要** |
| **１．アレニウス・システムズ社（本社、米国・カリフォルニア州）**   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | **企業概要** | **クリーンで経済的な「水素」と「カーボンブラック」をオンサイト方式で生産するための水素ステーション用の設備を設計、製造、販売している。設備を水素ステーションに販売し設置することから、水素を移送する無駄が省かれる。当社は設備の稼働可能時間を保証し、カーボンブラックは再販売のため回収する。** | | | | **設立年** | **2016年** | **従業員数** | **約6名** | | **HP** | [**http://www.arenius.systems**](http://www.arenius.systems) | | | | **同社の**  **技術・特徴** | **オンサイト型の水素ステーション用の設備を開発。天然ガス（CH4）の熱分解により二酸化炭素をほとんど、または、全く排出せずに水素とカーボンブラックを生産する技術を持つ。蒸気メタン改質（SMR）と比べて簡単で環境への負荷が少なく、また経済的である。** | | | | **参加目的** | **販売経路または流通経路を開拓するパートナー、技術提携、共同生産提携、合弁事業、新技術または製品の共同開発を行うパートナーを求めています。** | | |   **２．ファーストエレメント・フューエル社（本社、米国・カリフォルニア州）**   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | **企業概要** | **米国カリフォルニア州で最も多くの水素ステーションを運営する会社（2016年8月現在で約１９件）水素ステーションの設計、認可、建設、運営、保守などを行う。カリフォルニア州エネルギー委員会、トヨタ、ホンダから助成金を得ている。ステーション稼動は24時間、顧客数は1522人。世界初の水素供給網の開発、実現へと進む。** | | | | **設立年** | **2013年** | **従業員数** | **約17名** | | **HP** | [**www.truezero.com**](http://www.truezero.com) | | | | **同社の**  **特徴** | **当社から日本市場に提供できるもの、また同様に日本市場から学べるものが大いにある。現在日本市場で使われている部材・部品は北米とは異なっており、両者を合わせれば、相互にとって新しいビジネスが生まれると考えている。** | | | | **参加目的** | **販売経路または流通経路を開拓するパートナー、合弁事業、新技術または製品の共同開発を行うパートナーを求めています。** | | |   **３．PDCマシンズ社（本社、米国・ペンシルバニア州）**   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | **企業概要** | **水素圧縮機の世界的リーダーで、世界の水素エネルギー事業の50％超を日本と韓国を含むアジア太平洋地域、EU、北アメリカなど全世界に供給。水素ステーション用超高純度ダイヤフラム圧縮技術を持つ。また家庭用や小規模車輛の水素充填に使用できる小型水素充填機器を開発。90年代、ダイヤフラムコンプレッサーの日本市場への販売実績あり。2000年代初めには日本企業と協力し、水素ステーション用にダイヤフラムコンプレッサー機を提供した。** | | | | **設立年** | **1977年** | **従業員数** | **71名** | | **HP** | [**http://www.pdcmachines.com/**](http://www.pdcmachines.com/) | | | | **同社の**  **技術・特徴** | **・水素ステーション向け超高純度ダイヤフラム圧縮機。圧縮能力1日20 kgから最大1000 kg、圧力100MPA以上のコンプレッサーを含む。**  **・1日5～10 kg、圧力70MPAの家庭用や小規模法人車両の水素充填用小型水素充填機器「Simplefuel」を提供している。福祉車両とマテリアルハンドリング用フォークリフトにも35MPAで水素充填可能。** | | | | **参加目的** | **販売経路または流通経路を開拓するパートナー、技術提携、共同開発、合弁事業、新技術または製品の共同開発を行うパートナーを求めています。** | | |   **４．クアドロジェン・パワーシステムズ社（本社、カナダ・ブリティシュ・コロンビア州）**   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | **企業概要** | **統合バイオ燃料クリーンアップシステム（IBCS）技術の設計と開発に注力。フューエル・セル・エナジー、エアプロダクツ、ダナ・カナダ、カナダ国立研究機関など世界的企業や機関と技術開発において密接な協力関係をもつ。独自のIBCS技術を使って汚染物質を除去し、バイオガスから再生可能なバイオメタンと水素を生成。** | | | | **設立年** | **1997年** | **従業員数** | **約30名** | | **HP** | [www.quadrogen.com](http://www.quadrogen.com) | | | | **同社の**  **技術・特徴** | **・独自のC3P工程（凝縮、変換、回収、精製）により、バイオガスを洗浄して汚染物質をppbv（10億分の1レベル）まで除去。クリーンなバイオガスは、CH4を再生可能なH2に変換するための供給原料として使用可能。**  **・バイオガスの改質や水素の精製を行う高速周期の圧力スイング吸着法（PSA）技術。クアドロジェンのPSA技術は12の静止層で構成され、サイクルを一対のロータリー弁で制御する。** | | | | **参加目的** | **顧客、技術提携のパートナー、新技術または製品の共同開発を行うパートナーを探しています。** | | |   **５．ITMパワー社（本社：英国・シェフィールド　支社：米国・カリフォルニア州）**   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | **企業概要** | **高効率・高速のPEM電解槽システムを製造、Power to Gasやアンモニア生産、鉄およびガラス製造、水素自動車燃料などの市場向けにクリーンな燃料とエネルギー貯蔵用システムを提供。ドイツではPEM電解槽システムを利用したPower to Gasによるエネルギー貯蔵を導入した最初の企業となり、現在ヨーロッパで水素燃料ステーション網を展開している。** | | | | **設立年** | **2004年** | **従業員数** | **75名** | | **HP** | [www.itm-power.com](http://www.itm-power.com) | | | | **同社の**  **技術・特徴** | **ITMパワーの電気分解装置はPEMを利用した技術で、今までにない設計と高い出力密度により小型で効率的なシステムである。必要なのは水と電気への接続だけで、高純度な水素ガス源となり、どこでも必要な場所でオンデマンドにより燃料電池品質の圧縮水素を生成。耐用年数は最長20年で非常に高い信頼性を備えている。** | | | | **参加目的** | **関西企業との強固なパートナーシップを組むことにより、日本・アジア市場への展開を希望しています。** | | | |